

あくせす news

第 290 号
2026 年 8 月 17 日
発行者
呉市医師会病院
地域医療福祉連携室
あくせす

晩夏の候、暦の上では秋を迎えましたが、なお厳しい暑さが続いております。
今年は、気温 40 度以上の日を「酷暑日」とする運用が始まり、例年以上に
身に染みる暑さを実感する夏となっております。
さて、先生方にはいつもあくせすをご利用いただき、ありがとうございます。
引き続き一層のご利用・ご紹介のほど、よろしくお願いいたします。



関係医師懇談会のご案内

『地域包括ケアシステムの深化に向けたリハビリテーション医療の意義と役割』

- 講師 三上 幸夫 先生 (広島大学病院 リハビリテーション科 教授)
- 日時 2026 年 9 月 24 日 (木) 19:00~
- 場所 呉市医師会館 5階講堂

多くの先生方の会場へのご参加を
お待ちしております



医療安全・感染対策講習会、身体拘束等適正化のための職員研修 報告 7/22

医療安全対策講習会 ■令和 5・6・7 年度インシデントレポート報告■



副看護部長 5階師長
金行 真理子

過去 3 年間のインシデントについて、報告者・種類・内容・患者影響レベル・発生場所などの結果が報告されました。昨年度はインシデント総件数が減少する一方、患者への影響がないレベル 0 の報告が増加しており、早期の気づきや積極的な報告につながっていることが示されました。また、重大事故につながる可能性があった事例について、改善策や予防対策、病棟での工夫が紹介され、再発防止に向けた取り組みが共有されました。

感染対策講習会 ■病棟における「呼吸器感染症対策」■



呼吸器内科医師
川本 数真

「呼吸器感染症対策」として、感染予防の基本である標準予防策と感染経路別予防策について説明がありました。当院での結核患者を例に、結核は「感染≠発病」ではないことや、結核が疑われた場合の対応、感染拡大を防ぐための予防策、確定診断までの検査について学びました。また、感染症が疑われる患者への検査や治療の進め方、薬剤の選択・変更についても解説があり、全職員が呼吸器感染症への理解を深める貴重な機会となりました。今年度から呼吸器常勤医が加わり、これまで以上に病院全体で専門的かつ効果的な感染対策に取り組んでまいります。

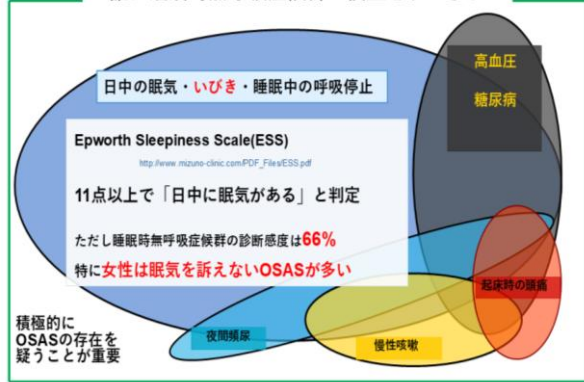
身体拘束等適正化のための職員研修 ~最小化に向けた病棟の取り組み~



4 階師長
加藤 みどり

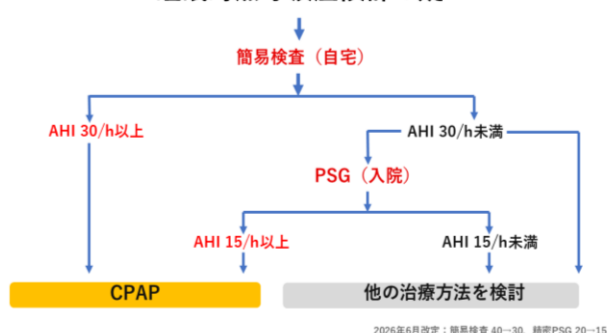
診療報酬改定に伴い、「身体拘束等適正化」に関する変更点や当院の実施状況、身体拘束実施割合について報告が行われました。また、実際の事例をもとに病棟での具体的な取り組みも紹介されました。当院では令和 6 年 6 月より職員研修を継続し、身体拘束を原則として行わない方針としました。その結果、実施件数は減少し、インシデント報告件数の増加もなく、身体拘束最小化への取り組みが推進されていることが報告されました。

誰に睡眠時無呼吸症候群の検査をすべきか



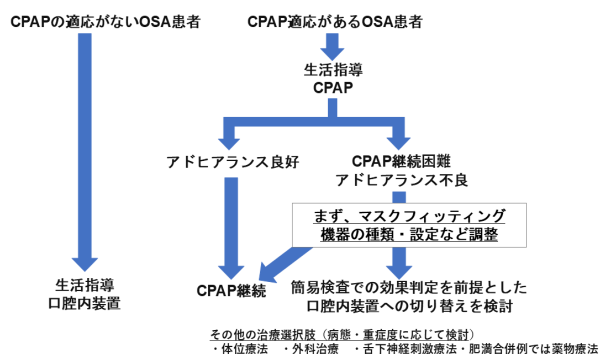
Kapur VK, et al. J Clin Sleep Med. 2017;13:479-504.
Rosenthal LD, Dolan DC. J Nerv Ment Dis. 2008;196:429-431.

睡眠時無呼吸症候群の疑い



2026年6月改定：簡易検査 40～30、精密PSG 20～15

治療のまとめ



PSG 検査入院 1泊2日の流れ

入院スケジュール

- 15:00 入院オリエンテーション・シャワー浴
- 16:45 技師による機械説明・装着
- 18:00 夕食
- 21:00 就寝
- 6:00 機器取り外し（看護師）
- 7:00 朝食
- 検査終了後退院



（検査用個室）

料金（1泊2日）
1割負担：約 16,000円 3割負担：約 33,000円



■関係医師懇談会 報告（7月28日）■

『睡眠時無呼吸症候群の
診断と治療』

内科主任医長 川本 数真



閉塞性睡眠時無呼吸症候群は、睡眠中に咽頭を中心とした上気道が狭窄・閉塞し、無呼吸や低呼吸を繰り返す疾患です。大きないびきや日中の眠気が代表的ですが、眠気を自覚しない患者も少なくありません。夜間頻尿、起床時頭痛、慢性咳嗽などの症状や、難治性高血圧をきっかけに発見されることもあります。未治療の場合、心血管疾患や脳卒中、交通事故などのリスクにも関連します。

診断では、まず自宅で簡易検査を実施し、必要に応じて入院によるポリソムノグラフィー（PSG）を行います。当院でもPSGを実施しています。2026年6月の診療報酬改定では、CPAPの保険適用基準が、簡易検査でAHI 40回/時以上から30回/時以上へ、PSGで20回/時以上から15回/時以上へ変更され、より早期の治療介入が可能となりました。

治療の中心は、睡眠中の気道を陽圧で開存させる持続陽圧呼吸療法（CPAP）です。軽症から中等症例やCPAPの継続が困難な症例では、口腔内装置（マウスピース）なども選択肢となります。近年は薬物療法や舌下神経刺激療法なども登場していますが、患者ごとの病態に応じた治療選択が重要です。閉塞性睡眠時無呼吸症候群は、まず疑って「見つけること」、そして治療を「続けること」が大切です。対象の患者さんがおられましたら、是非ご紹介のほどよろしくお願いいたします。

川本数真医師

外来診察日は月曜日・水曜日です

お問合わせ先 あくせす

☎32-7576 FAX32-7507



ご紹介のほど
よろしくお願いいたします

★7月1日～7月31日★

※届出日数（一般病床）

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数※	紹介外来患者数	医療相談患者数
102.0人	68.0%	16.6日	104人	163件



呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 あくせす

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通)
FAX (0823) 32-7507

院長 先本 MSW 森下 MSW 竹場 MSW 野瀬 MSW 菅原
室長 中間 事務 井上 事務 岩畔 事務 村田 事務 石丸